

政府ニ傳單ヲ撒布スルニ至レル趣ニテ數日來公安局ハ市内及附近村落ニ於テ共產黨ヲ爲シ連日十數名ツツ逮捕シ居レリ

五、公安局ノ花會賭博取締ハ依然繼續セラレ之ニ關聯シテ無賴漢ノ強迫事故瀕發シ居レリ臺灣人關係ニテ強迫ヲ受ケタル者一件アリ即チ二十一日王文生ナル籍民ノ宅ニ第二保安隊ニ屬スル者一名花會取締ノ名ヲ以テ平服ノ儘入り來リ家人ヲ強迫シテ金品ヲ捲上ケタル後通知ニ依リ馳ケ付ケタル領事館巡查ノ姿ヲ見ルヤ所持ノ拳銃ヲ殘シテ逃

走セル事件アリ(右拳銃ハ保安隊長ヨリ哀願ノ次第アリ將來ノ取締ニ關スル誓約書ヲ徴シタル上二十四日右隊長ニ返附セリ)又陳金禧ナル者ハ客月廿九日花會取締ノ爲臨檢セル警察員ヲ拳銃ニテ負傷セシメタル理由ヲ以テ二十六日公安局ニ依リ銃殺ニ處セラレタリ之ニ關聯セル布告ニ於テ同人カ臺灣浪人ト結托シ賭博ヲ爲シタル事ヲ掲記シ居レリ

支、滿、北平、奉天、天津、南京、福州、汕頭、廣東へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

付一 共產軍の福建省進出問題

587 昭和7年4月13日 在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

共產軍が福建省西部に進攻し龍巖占領後更に進撃中について

廈門 4月13日後発
本省 4月14日後着

第一四一號

客年往電第一二六號ノ通第四十九師張貞軍ノ一部引揚ニ依リ閩贛粵省境附近ノ共產軍ハ再ヒ猖獗トナリタルカ最近閩西方面ヨリ來厦セル者ノ談話並ニ新聞ノ情報ヲ綜合スルニ客月以來廣東方面ヨリノ討伐進行ト共ニ省境附近ノ共產軍ハ漸次閩西ニ流レ込ミ管テ共產軍ノ中心地タリシ龍巖^(巖カ)ニ於テ遂ニ張貞部下ノ一獨立團ヲ破リ去ル十日同地ヲ占領シ更ニ漳州ヘノ要路ニシテ目下張貞ノ前敵部隊^{逢年}旅ノ集中セル適中ニ迫リツツアリテ之カ爲同方面ヨリ漳州ニ避難シ來ルモノ多ク同地ニ於テハ早くモ共產軍襲來ノ謠言行ハルルニ至リタルカ張貞トシテハ自己ノ職責上ノ面目アリ一

ハ廣東軍入閩剿共ニ依リ地盤ヲ侵蝕セラルルノ虞アルヲ以テ廣東ニ代表ヲ派シテ然ル可ク妥協案ヲ講スルト共ニ去ル十日俄ニ漳州ニ於ケル自働車ヲ徵發シテ同地及附近ニ駐在スル一團ヲ適中ニ向ケ輸送ヲ開始セル趣ナリ

尙四十九師團司令部ニ於テモ龍巖^(巖カ)ノ陥落ヲ認ムルト共ニ廣東軍ハ未タ蕉岑地方ニ在リテ入閩シ居ラス右輸送部隊ノ適中着ト共ニ共同討伐ニ出ツル筈ナル旨發表シ居レリ

支、北平、奉天、天津、南京、福州、汕頭、廣東へ轉電セリ

588 昭和7年4月14日 在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

共產軍の廈門侵入防止につき中国側に問合せるべきとの英國領事意向および我が方応答振りについて

廈門 發
本省 4月14日後着

第一四三號

往電第一四一號ニ關シ

十四日朝英國領事來訪シ共產軍一萬五千ハ既ニ漳州ヨリ七十支里ノ水潮ニ押寄セ三千ノ張貞軍ヲ武裝解除セリトノ報道アリ在漳州同國宣教師六名ハ十三日午後既ニ當地ニ避難シ來レルカ米國副領事(領事ハ汕頭へ出張中)モ同國宣教師ヲ引揚シムル爲唯今漳州ニ向ヘリ自分ハ昨夜「ランブソン」公使ニ對シ軍艦ノ派遣方ヲ電請シタルカ萬一張貞軍カ戰ハスシテ逃ケンカ共產軍ハ結局廈門迄押寄せ來ルハ惧レモアルニ付佛國領事(首席領事)トモ談合ノ上林司令ニ對シ果シテ共產軍ノ廈門侵入ヲ防止シ得ルノ實力ト確信ヲ有スルヤ否ヤヲ問合スノ必要アリト思料スル旨語レリ右ニ對シ本官ハ大體似寄りノ情報ニ接シ(往電第一四一號發電後入手セルモノ)目下真相確カメ中ナリ又他ノ聞込ニ依レハ孫連仲カ陳濟棠ト聯絡ヲトリ其先鋒隊ヲ共產軍ト稱シテ進撃セシメ更ニ其本隊ヲ共產軍討伐ト仮稱シテ後ニ續カシメツツアルモノニシテ右ハ張貞ヲ追出シ其地盤ヲ奪取スルヲ目的トスルモノナリトノ説モアリ此點モ真相ヲ確カムル必要アリ目下手配中ナリトテ林司令ニ問合スルコトニハ態ト言及セサリシ處同領事ハ然ラハ佛國領事ニ如何ナル聞込アリヤ問合スヘシトテ辭去セリ

590 昭和7年4月(2)日

在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

仏國領事館における領事団會議に工部局議長
各国海軍側が列席し共同租界防護問題協議に
ついて

廈門 本省 4月21日後着

第一五四號
往電第一五三號ニ關シ

二十日午前佛領事館ニ於テ領事團會議開催工部局議長並ニ各國海軍先任官(日本ハ二十七驅逐隊司令及竹艦長)非公式ニ列席共同租界防護ノ問題ニ付協議ス工部局議長ハ目下全警察力ヲ擧ケテ敗兵ノ遁入防遏並ニ治安維持ニ努メツツアルヲ説明シ未タ陸戰隊ヲ上陸セシムル時期ニ非スト認ムル旨述ヘタルニ英國領事ハ海陸兩方面共萬全ノ策ヲ講スル必要是有ルヘキ旨神經過敏ノ態度ヲ以テ力説シタルカ是ニ對シ英國艦長ハ我々海軍側ハ危急ノ場合居留民ノ保護並ニ引揚ニ付當局ニ協力スルヲ任務トスルモノニシテ武力ノ「デイスプレー」ヲ目的トスルモノニ非サルニ付租界責任當局

支、北平、奉天、上海、南京、福州、汕頭、廣東ニ轉電セリ

589 昭和7年4月(15)日

在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

英米の軍艦廈門集合の場合我が方も権衡上若干
増派準備を馬公要港部に伝達方申入れについて

廈門 本省 4月15日後着

第一四五號

往電第一四三號當地警備艦側(現在驅逐艦一隻)ニ對シ今直ニ軍艦ノ増派ヲ請フノ必要アリトハ思ハサルモ英米ノ軍艦當地ニ集合スルカ如キ場合ニハ最モ當地ニ密接ナル關係ヲ有スル日本トシテ外國トノ權衡上ヨリスルモ更ニ若干ノ増派ヲ行フ事得策ナル時期何時到來スルヤモ計ラレサルニ付準備方然ルヘク取計ヒアリ度キ旨馬公ニ傳達方申入レ置キタリ

前電通り轉電セリ

ノ申出有ルヲ待ツテ行動ヲ起スコト致シ度ク又其場合ニモ其必要ノ有無ニ關シ租界ノ實情ヲ良ク知悉シ且ツ港内治安維持ノ責任ヲ有スル支那官憲ニ通報シタル上ノコトト致シ度キ旨述ヘタルニ日米海軍代表者此方針ニ賛成シ次テ林司令ニ對シ各國海軍ノ協力ヲ希望スルニ於テハ之ニ應スル用意アル旨首席(佛)領事ヨリ申入ルルコト、來ル廿三日午前英國軍艦ニ各國海軍代表者集合シ萬一ノ場合採ル可キ措置分擔區域等ヲ協議スルコト並ニ工部局ハ其迄ニ議員會議ヲ開キ其決議ニ基キ鼓浪嶼ノ實情ヲ領事團ニ報告スルコトニ意見一致シタリ

支、北平、奉天、上海、南京、福州、廣東、汕頭へ轉電セリ

591 昭和7年4月22日

在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

共產軍の正体ならびに行動に関し真相の捕捉
困難なるところ最悪の事態をも予想しこれが
対策心得方請訓

第一六二號(至急)

廈門 4月22日後発
本省 4月22日後着

所謂共產軍カ龍巖ニ現ハレテ以來漳州陥落ノ今日ニ至ル迄其正体並行動ニ關シ當館ノ接取セル幾多ノ情報ハ一ツ一ツ異リ且矛盾アリテ一モ符合スルモノ無ク其真相ヲ捕捉スルコト到底困難ノ實情ナル處右ハ各國領事館ハ勿論廈門ノ支那當局ニ於テモ亦同様ノ状態ニシテ今日ニ於テハ斯カル状態ナルカ故ニ彼等ヲ純然タル共產軍ト看做スノ外無シトノ空氣各方面共ニ濃厚トナリツツアリ彼等ハ既ニ廿一日石碼ヲ陥レ又同安方面ニ進撃中ナリトノ消息アリ右ニ付テハ未タ確報ヲ得サルモ假リニ彼等ヲ共產軍ナリトシ且最悪ノ場合ヲ豫想スレハ泉州方面ヲモ席卷シ福州邊り迄閩南一帯ノ地ニ其勢力ヲ伸ハスニ至ルヤモ計リ難ク斯ク對岸一帯カ亦化スル時ハ廈門ハ全然孤立ノ地位ニ陥リ奧地ヨリノ物資ノ供給ハ絶エ又金融並經濟上容易ナラサル事態ヲ醸スヘキハ勿論結局收拾スヘカラサル恐怖状態ニ陥リ且赤化ノ魔手那邊ニ迄及フヤ到底逆睹ヲ許ササルモノアルニ立至ルノ虞無シトセス就テハ最悪ノ場合ヲモ豫想シ今日ヨリ之カ對策ヲ

艦一入港、右ハ何レモ時局ノ見据着ク迄碇泊ノ筈ナリ
三、佛國、印度支那方面ヨリ巡洋艦一隻來航ノ模様ナルモ猶二、三日内ニハ到着シ得サル見込ナリ
四、日本、既報ノ驅逐艦三
五、支那、往電第一六〇號ノ通り
以上ノ通ニシテ廈門ハ海軍ニ關スル限り空前ノ壯觀ヲ呈シ從テ國際的色彩著シク濃厚トナレリ此間ニ於ケル善處方ニ付テハ本官ニ於テモ特ニ留意シ又帝國海軍側ニ對シテモ出來得ル限りノ協力ヲ爲シツツアル次第ナルカ海軍本省側ヨリ出先ニ對シ此上共此點ニ付努力方爲念訓令ヲ發セラルルニ於テハ一層好都合ナリト存ス(本項部外秘)
支、奉天、北平、上海、南京、漢口、廣東、福州、汕頭へ轉電セリ

593 昭和7年4月23日 在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

毛沢東が漳州進撃に当り共產各軍に与えた訓示ならびに同軍の実体について

考究シ置クコトモ決シテ早キニ失セサルヤニ思料ス右ニ付本官ニ於テ心得フヘキ點アラハ折返シ何分ノ御回示ヲ請フ支、北平、奉天、上海、南京、漢口、福州、廣東、汕頭、九江へ轉電セリ

592 昭和7年4月22日 在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

廈門に碇泊する各国軍艦の現況について

廈門 4月22日後発
本省 4月23日後着

第一六六號
往電第一四五號ニ關シ
目下當地ニ於ケル軍艦左ノ通り
一、英國、既報ノ巡洋艦一隻ノ外二十日驅逐一、潜水艦五、來航セリ右ハ定期巡航ナル趣二十五日出港ノ筈ナルカ更ニ翌二十六日潜水艦七、母艦一、入港ノ豫定ニテ形勢如何ニ依リテハ引續キ碇泊ノ筈ナリ
三、米國、二十一日砲艦一入港、從來ノ驅逐(艦)ハ豫定ノ巡航ヲ繼續スル必要上同日出港セルカ二十二日潜水艦四、母

廈門 發
本省 4月23日後着

第一六三號

往電第一六二號ニ關シ

漳州ニ於ケル實業界ノ有力者ニシテ同地商總會長タル蔡。竹禪(物資軍費ノ供給上張貞ト公私ヲ共ニシ十九日迄漳州ニ居リタル者)ヨリ直接聽取セリトテ同人ト密接ナル取引關係アル一臺灣人ノ洩ラセル情報左ノ通御參考迄
(-)今次ノ共匪軍ハ龍岩ヲ占領スルヤ直ニ漳州攻略ノ計畫ヲ建テ同地ヲ出發スルニ際シ共匪軍ノ首領毛澤東ハ各軍ニ對シ大要左ノ如キ誓。師ノ詞ヲ述ヘタル趣ナリ

我軍隊ハ閩贛省境ノ山間ノ僻地ニ於テ貧弱ナル寒村ヲ相手トシテ行動シ居ル關係上軍費ノ調達、軍需品ノ補給充分ナラス此ノ分ニテハ聽テ自滅ノ外無カルヘシ之ニ反シ漳州ハ閩南ノ中樞土地肥沃物資豐富ニシテ貿易港ヲ控ヘ又南洋華僑ノ送金多シ最近第四十九師ハ多額ノ阿片稅ヲ徵收スル外華僑ノ應援ヲ得テ數臺ノ飛行機及多量ノ武器彈藥ヲ輸入セリ我軍ハ此ノ龍岩占領ノ勢ニ乘シ漳州ヲ占領シ同地ヲ中心トシテ閩南一帯ニ勢力ヲ伸張スヘシ云々

(二)彼等ハ毛澤東部隊ヲ主力トシ林彪ヲ前敵總指揮トシ彭德懷、朱德等ト共ニ四路ニ別レ漳州ヲ攻撃セルモノニシテ廿日入城スルヤ即日軍事會議ヲ開キ漳州ニ於テ毛澤東ヲ總代表トスル「ソビエツト」政府ノ建設並閩南一帯ノ占領ヲ決議セリ
冒頭往電通轉電セリ

594 昭和7年4月23日 在厦門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

共産軍の正体および行動その他状況判断上参
考となるべき情報電報方稟請

付記 四月二十六日起草芳沢外務大臣より在厦門三

浦領事宛電報案

厦門進撃以前の共産軍活動情況

厦門 4月23日後発

本省 4月23日後着

第一六七號

往電第一五〇號ニ關シ

今回漳州等ヲ攻略セル共産軍ノ正体最近ノ行動其他状況判

断上参考トナルモノアラハ取纏メ電報相成タシ尙今後ノ分ハ關係各館ヨリ當方ヘ隨時轉報相成様取計アリタシ
公使上海南京漢口長沙九江福州汕頭廣東ヘ轉電セリ

(付記)

貴電第一六七號ニ關シ

貴地侵入紅軍ノ正体、行動等ニ付テハ一ニ貴方ノ觀測ニ俟ツノ外ナキ次第ノ處從來ノ經緯等ニツキ参考トナルヘシト思ハル事項左ノ如シ

一、客年何應欽及蔣介石ハ二回ニ亘リ十五萬及三十萬ノ大軍ヲ江西奧地ニ動カシ剿匪ニ全力ヲ注ケルモ紅軍ハ巧ミニ其ノ銳鋒ヲ避ケ居ル中、内政上ノ理由(廣東派トノ乖離)モアリ蔣介石ハ討伐ヲ打切ルノ已ムナキニ至レリ

二、其ノ後十月ニ至リ南京派ハ廣東派ト妥協ノ結果、之迄江西ニ在リテ剿匪ノ中堅ヲナセル第十九路軍ヲ上海ヘ移動スルノ已ムナキニ至リ其結果討伐軍ノ壓力減シタル爲メ共産軍ハ著シク勢ヲ盛り返スニ至レリ

三、一方中國共産黨本部ニ於テハ「コミンテルン」ノ指令ニ基キ從來ノ盲動主義的政策(所謂李立三路線)ヲ改メ新ニ

國共産黨ヲシテ中支ニ於ケル抗日運動ヲ援助シ數多ノ事件ヲ構ヘントスルノ策ヲ取ルニ至レリトノ説アリ

ハ、一方廣東側ニ於テハ省境防備軍ヨリ頻リニ共匪跳梁ヲ訴ヘ來リ又何應欽、張貞等ヨリモ共同討伐ヲ要求シ越セルニ對シ廣東軍總司令陳濟棠ハ廣西軍總司令李宗仁ト協議ノ結果北江駐防ノ第一軍及第一獨立旅ニ對シ江西進出方ヲ命シ之カ總指揮トシテ余漢謀ヲ三月一日韶關ヘ出發セシメタルカ別ニ江西軍ヨリハ第七軍(軍長廖壽)ヲ湖南ノ永德ヲ經テ江西ニ潛入セシメタリ
其ノ後廣西軍モ亦湖南ヲ經テ江西ニ派兵スル趣喧傳セラレタルカ今回共産軍ノ厦門方面進出ハ其ノ後二起レルモノナリ

九、最近ニ於ケル紅軍ノ配置ハ主力ヲ江西南部ニ置キ北方ヨリノ討伐ニ對シテハ江西東北及江西湖南省境ニ援護部隊ヲ配置シ別ニ漢口ノ周圍ニ軍隊ヲ配置シ必要ニ應シ牽制ヲ試ム

十、江西ニ於ケル共産軍ノ兵力左ノ如シ

第四軍朱德、第五軍彭德懷、第八軍何長庚、第十一軍葉挺、第十二軍林彪、第二十軍(劉鉄超)第二十二軍陳毅以上

六、本年ニ入り上海事件ノ勃發ノ結果剿匪事業ハ全ク顧ミラレサルニ至リ其結果紅軍ハ愈々勢ヲ逞ウセリ
七、之ヨリ曩キ我軍北滿侵入ノ頃ヨリ勞農政府ハ著シク神經ヲ惱マシ我軍ノ行動ヲ牽制スル一方法トシテ「コミンテルン」ハ滿洲朝鮮及日本ノ共産黨ヲ總動員スルト共ニ中

五、當時政府軍ハ飛行機爆撃等ノ方法ニヨリ之カ討伐ヲ計リタルモ目的ヲ達スルヲ得ヌ却ツテ給與不渡等ノ爲メ紅軍ニ寢返ルモノサヘ生スルニ至レリ(孫連仲部下ノ桂旅一萬)
尙福建側ニ於テハ張貞軍ノ一部ヲ省境ヨリ引揚ケタル事實アリ

六ヶ軍一〇四、〇〇〇歩銃三七、二〇〇、拳銃九、五〇
○機關銃九〇迫撃砲二五山砲四ナリ

十二、右ノ内今回貴地方面へ侵入セル部隊ハ第四、第五、第十二、第二十及孫連仲ノ寢返り軍(一萬)中ノ一部(全兵力ハ九萬五千ナルモ右ノ内第十二及第二十八土匪ノ編收サレタルモノナルヲ以テ正規軍ハ第四(三〇、〇〇〇)第五(二〇、〇〇〇)及孫連仲軍(一萬)ナルヘシ(客年十月十二日附亞二機密第一一八八号参照)

編注 右電報案は廢案となつたが、これ以前における共產

軍の活動状況を知る上、便宜と思われるので参考のため「付記」とした。

595 昭和7年4月23日 在厦門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

厦門の事態に対処するため警察官二十名増派
方要請について

厦門 發
本省 4月23日後着

第一七〇號(至急)

當地ノ情勢ハ屢次電報ノ如ク當館トシテハ最悪ノ場合ヲ豫想シ之カ対策ヲ講スルノ外無ク又事態ハ刻々惡化シ行ク情勢ナルニ付二十二日ヨリ館員及警察署員ノ總動員ヲ行ヒツツアル處現在ノ署員ヲ以テシテハ到底此際ニ善處スルコト困難ニ付此際特別ノ御詮議ヲ以テ巡查二十名至急増員方御取計相成度ク尙當地ニ於テハ厦門語(臺灣語)ヲ解スルモノニ非サレハ充分能率ヲ發揮シ能ハサルニ付右人員ノ全部又ハ大部分ハ臺灣總督府ヨリ出向セシメラルルコト致シタキニ付テハ至急總督府側ニ交渉方御取計相成度ク尙細目ニ亘リテハ當館ヨリ直接同府警務局ニ交渉スルコト致シタク何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ

596 昭和7年4月24日 在厦門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

領事団會議での共同租界防護問題に関する決
定について

厦門 發
本省 4月24日後着

第一六九號

往電第一五四號ニ關シ

二十日夜開催セラレタル參事會ノ決議ニ基キ工部局議長ヨリ廿二日附ヲ以テ主席領事宛公文ヲ差越シタルヲ以テ廿三日領事團會議ヲ開キ左ノ通協議決定セリ

(一)同議長ニ對シ左ノ趣旨ノ回答ヲ主席領事ヨリ發スルコト
前記公文ノ内容ハ要スルニ

イ、工部局ハ現在ニ於テハ現有警察力ヲ以テ租界内ノ秩序ヲ維持シ且居住者ノ生命財産ヲ保護スルニ足ルモノト思量ス

ロ、然レトモ將來ニ於テハ危急ノ事態發生ノ可能性ハ有之處スル場合ニハ工部局警察ハ生命財産ヲ保護スルニ充分ノモノニ非スト認ムルヲ以テ通報次第在泊外國軍艦ヨリ應援部隊ヲ上陸セシメ警察ニ協力スル様領事團ニ於テ取計ハレ度シ

ハ、工部局ハ現在ニ於テハ應援部隊ノ上陸ヲ希望セスト言フニアリト了解スル處領事團ハ工部局ヨリ前記ノ援助ヲ必要トスル場合ニ於ケル之カ通報ノ方法ヲ承知シ度シ

597 昭和7年4月24日 在厦門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

英国巡洋艦における日、英、米三国海軍指揮
官會議において鼓浪嶼在住外国人の保護なら

(二)首席領事ヨリ在泊各國海軍先任官(英國巡洋艦長)ニ對シ

領事團ハ在住外國人ノ生命財産ヲ危殆ナラシムルカ如キ場合近キ將來ニ於テ何時發生スルヤモ計ラレスト認ムルニ付一定ノ信號アリ次第租界ノ保護、亦絕對必要ノ場合ニ於ケル外國人ノ引揚ヲ擁護スルニ必要ナル陸戰隊ノ上陸方ニ關シ他國海軍先任官ト協定ヲ遂ケラレントヲ希望スル

旨ノ書面ヲ送ルコト

(三)首席領事ハ領事團及工部局ヲ代表シ好マシカラサル人物共産黨員又ハ兵隊ノ租界流入ヲ防止スル爲鼓浪嶼島周圍ヲ巡邏スルノ責任ヲ執ル用意アリヤ否ヤヲ書面ヲ以テ照會スルコト

尙以上三項ハ何レモ廿三日附ヲ以テ實行セラレタリ
冒頭往電ノ通轉電セリ

びに引揚げに関し協議について

厦門 4月24日後発
本省 4月24日後着

第一七四號

往電第一五四號ニ關シ

二十三日午前英國巡洋艦 Devonshire ニ於テ日、英、米三國海軍指揮官會議開催危急ノ場合ニ於ケル鼓浪嶼在任外國人ノ保護並ニ引揚ニ關シ協議シ

一、陸戦隊ハ厦門領事團ノ要求アリ次第上陸セシムルコト
二、狀況急迫ノ場合ニハ先ツ婦女子ヲ軍艦ニ收容スルコト
三、事態惡化ノ場合在留民引揚ノ可否ニ關シテハ夫々本國政府ニ請訓スルコト
ニ打合セテ遂ケ其細目ヲ協定シ、尙日本側ニ於テハ

一、排日ニ關スル事件突發ノ場合ニハ日本側ハ右協定ニ拘ラズ單ニ行動スルコトアルヘキコト
二、狀況如何ニ依リ日本側ハ厦門島側ニ對シテモ必要ノ措置ヲ採ルコトアルヘキコト
三、狀況如何ニ依リ日本側ハ厦門島側ニ對シテモ必要ノ措置ヲ採ルコトアルヘキコト
ニ付英米側ノ諒解ヲ取付ケタル趣ナリ海軍側ヨリ詳細電報之アルヘキモ不取敢

六 中国 政 情

往復シ之ト密接ナル關係ヲ作りタルカ陳濟棠ノ容ルル所トナラサリシ爲逆戦法ヲ用ヒ濟棠ノ地盤^(盤)慾ヲ満足セシムル爲共匪討伐ヲ名目トシテ出兵セシメ以テ彼ヲ自派ニ引摺ラントセリ

三、或ハ之カ直接ノ原因トモ見ラルヘキモノハ余漢謀カ三師一旅ヲ率ヒテ贛南ニ入り中央軍ト聯絡シテ共匪ヲ伐戮セルヲ以テ共匪ハ自然抵抗薄キ福建ニ流込ミタル次第ナルカ茲ニ奇怪ナルハ潮梅方面ヨリ福建ニ進出スル筈ナリシ廣東軍ハ最近迄遅々トシテ進展セサリシ點殊ニ余漢謀ハ飛行隊ヲ使用シ共匪主力ノ行動ヲ熟知セル筈ナリシニ拘ラス故意ニ入閩軍ノ行動ヲ或ル時期迄遅延セシメ共匪カ掠奪ヲ終ヘタル後永定、上杭ニ進出シタル點ニテ右ハ前記情報ニモ照シ往電第二九六號ノ(三)ニモ所報ノ通廣東側ノ狡猾ナル福建乗取ノ一表現トモ見ラレサルニ非ス
公使ヨリ上海、南京へ、漢口ヨリ九江へ夫々轉電又ハ轉報アリ度シ

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、福州、汕頭、厦門へ轉電シ、香港へ暗送セリ

公使ヨリ南京へ轉報アリタシ
冒頭往電ノ通轉電セリ

598 昭和7年4月25日 在広東須磨總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

共産軍の福建進出に関する広東方面の情報と
観測について

広東 4月25日後発
本省 4月26日前着

第三一八號

往電第三一五號ニ關シ

共産軍ノ福建進出ニ關シテハ諸説紛々タル處當方面ノ情報並ニ觀測左ノ通

一、胡漢民派ハ三月末反蔣ノ大方針トシテ上海和平會議反對ト共ニ共匪トノ聯絡ヲ議シタル處前者ハ西南政務委員^(余文)ニ於テ通過セルモ後者ノ共匪トノ妥協ハ多數決ノ結果遂ニ不採擇トナレリ(以上四月二日鄧澤如ヨリノ聞込トシテ林麗生ノ齎ラセル情報)

二、然ルニ其後尙西南政務委員會ノ一部ノ者ハ密ニ孫連仲ト

599 昭和7年4月26日 芳沢外務大臣より
在厦門三浦領事宛(電報)

共産軍対策として利害關係国出先官憲間の協
調と中国側援軍の急派および厦門島内共産党
員取締りに尽力方訓令

本省 4月26日後11時40分発

第二七號

貴電第一六二號ニ關シ

(一)對岸ノ情勢如何ニ不拘厦門島及鼓浪嶼ニ在リテハ地勢上大抵ノ場合共産軍ノ侵襲ヲ蒙ルコト無カルヘク此際寧口憂慮サルルハ其ノ對岸ニ於テ優勢ヲ保持スル限り共産黨員ノ策應及軍隊ノ寢返リニ因ル擾亂ノ發生無キヲ保シ難キ點ニ在リ從テ現下ノ對策トシテハ先ツ利害關係國出先官憲間ニ於テ充分歩調ヲ合ハセ極力支那側ヲ鞭撻シテ援軍ノ急派及島内共産黨員ノ妄動取締ニ全力ヲ竭サシムルヲ以テ根本トスヘク右ニ關シテハ今後共貴官ニ於テ指導的立場ニ立タルコト最モ必要ナリ

(二)尤モ支那側ニ對シテハ餘リ多クヲ期待シ得ラレサルヘキヲ以テ緊急ノ場合ニ於ケル居留民及權益ノ保護並租界ノ

第一八一號
 往電第一七七號ニ關シ
 廈門島ニ實數壹萬ニ近キ在留民(大部分ハ臺灣人)ヲ有スル
 我方トシテハ之カ始末ヲ付ケサル限リ廈門島ヨリモ遙ニ安
 全ナル鼓浪嶼島ニ在往スル邦人ノ引揚問題ハ考慮ノ限リニ
 非サルヘキ處廈門島ノ臺灣人大多數ハ殆ト土着ノモノト云

艦側ト打合セ置カレ度(尤モ貴電第一五四號後段支那側
 ヨリ列國海軍ノ協力ヲ求メラレ列國共同シテ廈門島ニ陸
 戰隊ヲ揚陸スルノ必要起レル場合ハ別問題ナリ)
 (四)情勢特ニ排日ニ轉向シタル場合ニハ他國側ノ充分ナル協
 力ハ望ミ得ラレサルヘキ處貴電第一七四號末段ニ依レハ
 此ノ場合我方ニ於テ單獨行動ニ出ツルコトアルヘキコト
 ニ付英米側ノ諒解ヲ取付ケタル趣ナルモ廈門島側ニ對シ
 テ武力ヲ行使スルコトハ理由ノ如何ニ不拘大局上極メテ
 不利ナルニ付之ヲ差控ヘ此場合ニ於ケル居留民及權益ノ
 保護方ニ付テハ前記(二)ノ要領ニ依リ可然措置セラルルコ
 トト致シ度キニ付右ニ關シテモ我警備艦側トモ充分腹ヲ
 合ハセ處置セラレ度
 (五)對岸一帯カ共產軍ノ占據ニ歸シ冒頭貴電ニ豫想セラルル
 カ如キ最惡ノ場合ニ立到リ而モ相當長引ク情勢トナルニ
 於テハ邦人ノ商賣及在留モ不能ニ陥リ少クトモ内地人ハ
 結局總引揚ノ外無キニ至ルヘク此場合ニ處スヘキ方途ニ
 付テハ其場合情況ニ應シ御稟請ヲ俟テ別ニ考慮スヘキモ
 夫レ迄ノ應急ノ措置トシテハ以上各項ヲ体シ臨機善處セ
 ラレ度其間若シ部分的引揚ノ必要起ラハ大体過般ノ滿洲

600 昭和7年4月26日 在廈門三浦領事より
 芳沢外務大臣宛(電報)
 鼓浪嶼共同租界防護問題に關し意見上申
 厦門 4月26日後発
 本省 4月26日後着

防衛ニ付テハ列國間ノ完全ナル協調ノ下ニ對策ヲ練リ置
 クヲ必要トシ右ニ付テハ大体貴電第一六九號及第一七四
 號ノ「ライン」ニテ進ムコト適當ナルヘシ此點ニ付考慮
 ヲ要スルハ廈門島側ニ危急情態起レル場合ノ處置ナル處
 同島在留内地人ハ情勢ニ應シ早キニ臨ンテ鼓浪嶼側ニ避
 難セシメ會社銀行等ニ付テモ資金、重要書類其他貴重品
 等ハ手遅レトナラサル以前ニ持出サシメ置クヲ必要トス
 ヘク又臺灣籍民ニ付テハ之カ全部ニ對シ内地人同等ノ保
 護ヲ加フルコトハ實際上不可能ナルノミナラス其ノ生活
 狀況上萬一ノ場合ニモ其ノ多クハ内地人同様ノ危險ヲ感
 スルコト無カルヘキヲ以テ彼等ニ對シテハ必要ニ應シ各
 自夫々適當ノ自助的方法ニ依リ一時安全ヲ計ル様豫メ臺
 灣公會等ヲシテ手配セシメ實際危險ニ堪ヘサルモノニ限
 リ必要ノ保護ヲ加ヘ内地人ト共ニ鼓浪嶼側ニ避難收容ス
 ルコトトスル外無カルヘシ
 (三)右廈門島側ニ對スル手配ニ當リテハ陸戰隊ノ力ヲ藉ルル
 必要起ルコトアルヘキモ右ハ單ニ避難援護ノ程度ニ止ム
 ルコトト致シ度ク進ムテ現地保護ノ手段ニ出ツルコトハ
 出來得ル限リ避クルコト得策ト認ムルニ付此點克ク警備

事變後ノ手配ニ準シ船繰リ收容救護等ニ付臺灣側トモ渡
 リヲ附ケ適宜措置セラレ差支無ク又食料品ノ補給等ノ必
 要モ起ラハ實情ヲ具シ改メテ御申出アリ度
 (六)尙時局ニ對スル籍民ノ策動ニ付テハ充分警戒ノ要アリト
 存ス為念
 以上海軍側ト打合スミ
 貴電ノ通轉電セリ

フモ不可無キ位ナルニ付萬一ノ場合ニ於テモ之カ引揚ヲ行
 フハ容易ナラサルコトニテ事實上殆ト不可能ノコトニ屬ス
 故ニ關係各國カ鼓浪嶼ノ居留民ヲ引揚ケシメスシテ鼓浪嶼
 島ヲ防護スルコトニ意見一致シタル場合ニハ我方トシテハ
 各國ト協調シテ共同作戰ニ出ツルノ得策ナルハ論ヲ俟タサ
 ル處ナリト思料セラルルモ萬一一部又ハ全部ノ關係國カ引
 揚ヲ可トスルノ意向ニ決スル場合ニ於テモ我方ニ於テハ之
 ニ追従スルコトハ事實上困難ナルノミナラス一九二七年四
 月四日附在北平首席公使發厦門首席領事宛公文ニ依ルモ英
 國艦長ノ鼓浪嶼共同租界防護ノ方針ニ付關係各國ノ完全ナ
 ル意見ノ一致無キ限リ引揚ノ外無シト云フ意見ハ必スシモ
 正鵠ヲ得タルモノニ非ス即チ同艦長ハ居留民ノ保護ト鼓浪
 嶼島ノ防護トヲ截然區別シ立論シ居ルモ前記首席公使公文
 ノ如ク各國ハ其ノ居留民ヲ各個ニ保護ノ措置ヲ執ルヘキモ
 ノトセハ結局右ノ目的ヲ達スル爲必要ナル措置即チ結局ハ
 鼓浪嶼島防護ノ手段ヲモ取り得ルモノト見ルヲ至當トスヘ
 シ(此ノ場合ニ於テ居留民現地保護ノ方針ヲ採リ利害一致
 スル國アラハ之ト協調シテ共同作戰ニ出ツルヲ妨ケサルハ
 勿論ナルヘシ)

以上ノ次第二艦ミ幸ヒニ鼓浪嶼島ヲ防護スルコトニ各國ノ意見一致スル場合ニハ本官ニ於テモ單純ニ之ニ贊意ヲ表スルコトトシ然ラサル場合ニハ前述ノ如ク實際並理論ノ兩方面ヨリ我方ノ立場ヲ闡明シ置クコト必要ナルヤニ思料ス本件ニ關シテハ英米佛領事モ既ニ夫々本國政府ニ請訓シタル趣ニモ有之ニ付前記卑見御參酌ノ上何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ
公使ヨリ南京へ轉報ヲ請フ
公使、北平、奉天、上海、福州、廣東、漢口、汕頭へ轉電セリ

601 昭和7年4月29日 南(弘)台湾総督より
芳沢外務大臣宛(電報)

廈門救援のため警察官十一名派遣方について

台北 4月29日後発
本省 4月29日後着

第七號

御電照ニ依リ當府ヨリ巡查十名引率者警部一名ヲ附シ五月一日基隆出帆ノ廣東丸(最近便船)ニテ廈門ニ派遣スル事ト

ノ多數ナル關係上之カ引揚ニ事實上ノ困難ヲ伴フヘク且理論上居留民ノ保護ト租界ノ防護トヲ截然區別スルノ困難ナルハ貴見ノ通ナルニ付場合ニ依リ居留民ノ現地保護ノ必要アルヘキコトニ關シ主義上貴官ヨリ我方ノ立場ヲ闡明シ置カルルコトハ差支無キモ我方獨リ現地保護ヲ敢行スルコトハ其ノ名目ハ立ツニ相違無キモ支那側トノ間ニ種々ノ紛糾ヲ醸スノ極累ヲ我カ對外關係ニ及ホシ且飽ク迄其ノ目的ヲ達セムトセハ勢ヒ多大ノ兵力ヲ動かサル可ラサル破目ニ陥ル等結局上海事件ノ二ノ舞ヲ踏マサルルノ危険極メテ多ク大局上得策ナラスト思考スルニ付差控フルコトト致シ度

三、要スルニ前項ノ場合ニハ臨機居留民ノ引揚ヲ行フノ外無ク其ノ際籍民ニ對シ執ルヘキ措置ハ御來示ノ通相當困難ヲ伴フヘキモ結局往電第二七號ノ方針ニ依ラルルコト已ムヲ得サルヘシ

以上前電補足迄爲念申進ス海軍側ト打合濟

貴電ノ通轉電セリ

貴電第一六二號及第一八一號並往電第二七號ト共ニ聯盟、

在米、英、獨、佛、伊、和、露各大使公使へ轉電セリ

シタリ
右ハ五月二日午前七時頃廈門著ノ見込
御了知ヲ請フ

602 昭和7年4月30日 芳沢外務大臣より
在廈門三浦領事宛(電報)

鼓浪嶼居留民は引揚げの外無く廈門島台湾籍民は一部鼓浪嶼収容の方針について

本省 4月30日後11時発

第三二號

貴電第一八一號ニ關シ

一、共產軍カ各國側共通ノ脅威タル以上之カ對策ニ付關係國間ニ步調ノ亂ルルコトハ最モ禁物ナルニ付我警備艦ト協力シテ列國領事、租界當局、海軍指揮官間ニ充分協調ヲ保チ得ル様精々御盡力アリ度ク列國カ完全ナル協調ヲ以テ租界防護ニ決シタル場合ニハ我方トシテ之ニ参加スルコトニ異存無シ

二、租界防護ニ關シ列國間ノ意見一致セス鼓浪嶼ヨリ居留民ヲ引揚ケシムルモノヲ生シタル場合我方トシテハ居留民

603 昭和7年4月30日 在中国重光公使より
芳沢外務大臣宛

外交部に対し廈門在留邦人保護方申入れについて

機密公第一三二號 (5月10日接受)

昭和七年四月三十日

在中華民國

特命全權公使 重光 葵 (印)

外務大臣 芳澤 謙吉殿

昭和七年四月三十日附在南京上村書記官宛

機密公第一二三號信寫送附

廈門ニ於ケル邦人保護方申入ノ件

機密公第一二三號

昭和七年四月三十日

在中華民國

特命全權公使 重光 葵

在南京

三等書記官 上村 伸一殿

廈門ニ於ケル邦人保護方申入ノ件

本件外交部へ申入方ニ關シテハ二十八日電報ノ通ナル處右公文別紙ノ通茲許送付ス外交部ニ交附方可然御取計相成度シ

本信寫送付先 外務大臣 北平 奉天 漢口 福州 廣東 上海 汕頭

(別紙)
外第二九號

以書翰啓上致候。陳者、在廈門日本領事ノ報告ニ依レハ、閩南ノ共匪軍ハ既ニ龍巖、漳州、海澄ヲ陥レ廈門ヲ窺ヒツツアリ、爲ニ同地ハ避難民ノ殺到及敗殘兵ノ遁入等ニ依リ人心極度ニ動搖シ共產黨ハ其ノ機ニ乘シ秘ニ民衆ヲ糾合シ治安ノ攪亂ヲ策シツツアリテ形勢危急ヲ告ケタルヲ以テ、四月二十三日、英、米各國海軍指揮官ハ鼓浪嶼在任外國人ノ保護ニ關シ協議シタル趣ナル處、同地共同租界並ニ在留邦人ノ生命財産ニ對スル前記ノ脅威ニ鑑ミ本使ハ貴國政府カ地方官憲ヲ督勵シ租界ノ安全及ヒ在留邦人ノ生命財産ノ保護ニ關シ速ニ有效適切ナル措置ヲ講セラレンコトヲ切望致候。

サルヘキコト

ニ殊ニ臺灣人側ニ對シ帝國政府カ内地人ト差別ヲ設ケテ考慮ヲ加ヘツツアルコトヲ暗示スラモ與ヘ能ハサルコト

之ナリ排日運動ノ場合ニハ臺灣人ハ其ノ特殊ノ立場ヲ利用シテ其一身ノ安全並ニ利益ヲ計ルヘキハ想像ニ難カラサル處共產軍又ハ共產黨ニ關聯シ萬一ノ變事發生スルカ如キ場合ニハ支那人ノ假面ヲ以テ其身ノ安全並ニ財産ノ保護ヲ期待シ得サルハ勿論ニ付此場合ニハ濟南事件其他最近行ハレタル現地保護ノ事例ヲ夢見ル等日本人トシテノ特權ヲ百「パーセント」ニ享受センコトヲ期待スヘキハ彼等トシテ素ヨリ當然ニシテ寧ロ純粹ノ支那人スラモ危急ノ場合ニハ臺灣人即チ日本人トシテ我方ノ保護ヲ求メ來ルカ如キ場合必スシモ絶無ト斷スル能ハス故ニ貴電第二七號ノ(二)ノ御方針ハ至極御尤モトハ存スルモ實際問題トシテ考フル時ハ餘程鮮カナル手際ヲ以テスルニ非サレハ將來領事館トシテ實數一萬二近キ在留臺灣人ヲ統御スルコト實際上不可能ニ陥リ延ヒテハ累ヲ臺灣統治上ニモ及ホス憂ヒナキヲ保セス(萬一不幸ニシテ斯ノ如キ事

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。

昭和七年四月二十九日

敬具。

日本帝國特命全權公使 重光 葵
國民政府外交部長 羅文幹殿

604 昭和七年五月四日 在廈門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

廈門島の在留邦人保護に当り最も困難且つ苦心を要する諸点につき上申

廈門 5月4日後発
本省 5月4日後着

第二二五號

(一)⁽¹⁾ 貴電第二七號並ニ第三二號御訓令ノ趣旨ハ帝國外交ノ根本方針ニ顧ミ至極尤モノ次第二ニ存セラレ本官ニ於テモ精々御來訓ノ趣旨ニ副フヘク努力シ度キ所存ナル處現場ノ領事トシテ最モ困難ヲ感シ且苦心ヲ要スルハ一、在留民全般ニ對シテ早キニ臨テ帝國政府ノ根本方針ヲ明ラ様ニ打明クルコト必スシモ諸般ノ關係上得策ニ非

態ニ立至ル虞アル場合ニハ結局現場ニアル領事個人ノ責ニ歸シ事態ノ惡化ヲ防止スルノ外ナカルヘシ)

(二)⁽²⁾ 右様ノ次第二ニ本官トシテハ差當リ帝國政府ノ眞意ヲ曝ケ出サス又内台人ノ區別ヲ設ケスシテ御來訓ノ趣旨ニ副フ可ク出來得ル限り努力スル必要アルヲ以テ往電第二〇〇號並ニ第二〇五號ノ貴重品等ノ始末並ニ在留民各自ノ充分ナル覺悟ト用意トヲ要ス可キヲ諭旨シ之ヲ要スルニ排日運動ノ場合ト異リ事變ハ恐ラク咄嗟ノ間ニ起ル可ク而モ其直前迄ハ表面平靜ヲ保チ外國軍隊タル日本兵ヲ豫メ上陸セシムルカ如キ事ノ不可能ナルハ勿論一度事件發生セハ全市ハ忽チ混亂ニ陥リ充分ナル保護ハ何レヨリモ期待スル事困難トナル可キ虞アルニ付萬一ノ場合ニ於テ受ク可キ慘禍ト幸ニ事無カリシ場合ニ對スル用意トヲ篤ト比較考量スルヲ要ス可シトノ趣旨ニテ一律内台人ニ臨ミ居ル次第ナリ

(三) 然リト雖モ多數在留民中ニハ事變突發直前迄事態ノ如何ヲ了解シ能ハサル者又ハ家計ノ都合上内心ハ兎モ角表面上大言壯語スルノ徒輩絶無トハ言ヒ難ク結局本官ノ本省御訓令ノ方針遂行上支障ヲ來スカ如キ場合必シモ之無キ

ヲ保セサルニ付此ノ際一般ノ空氣ヲ更ニ誘導スルノ必要アルヲ認メタルヲ以テ厦門側ニ於テ最も多數ノ家眷ヲ抱擁スル旭瀛書院長ニ對シ先ツ以テ同校職員ノ家族ヲ鼓浪嶼ニ移轉セシムル事然ル可キ旨内諭シ置キタリ
(四)然ルニ同院長ハ幸ニモ右方針ニ全然同感ノ意ヲ表シ五月一日同院職(員)ノ打合會ヲ開キ

一、内地人職員ノ家族ハ鼓浪嶼ニ移轉セシムル事
二、臺灣人職員ハ何レモ家族ノ數多キヲ以テ寧口臺灣ニ歸還ヲ希望シ居ルニ付其意ニ任ス事

ニ意見ヲ取纏メタル趣ヲ以テ本官ノ意見ト諒解トヲ求メ來リタルニ付之ニ贊意ヲ表スルト共ニ豫テ分署側ニ於テ家庭ノ係累ヨリ脱シ自由ニ活動シ度キ旨希望ノ次第モアルニ付旁々右ノ空氣ヲ助成累進スル目的ヲ以テ分署員家族ノ鼓浪嶼移轉ヲ命シ又臺灣人巡查家族ハ前記ト同様ノ理由ニ依リ收容場ノ關係モアルニ付一先ツ臺灣ニ歸還セシムル事ニ取計ヘリ

(五)右ノ結果同署員内地人職員家族十一名中十名ハ二日鼓浪嶼ニ移轉シ残りノ一名並ニ臺灣人職員家族三十一名ハ三日當地發鳳山丸ニテ臺灣ニ歸還シタルカ分署ノ内地人巡

ラルト前後シ五日廣西軍總司令部參議陳某來厦シ商會ニ對シ先ツ開。拔。費。トシテ四十萬元ヲ請求セリ

三、然ルニ商會側ノ軍費調達運動(往電第二二二號)具体化シ居ラサリシニ付不取敢富豪ヲ招致シ協議ノ結果果二角二十萬元調達ノ見込タケハ達スルニ至リタル模様ナル處九日赴粵代表ノ一人呂渭生。歸厦シ陳某ト聯絡シテ運動スル一方蕭佛成、白崇禧等ヨリ當地有力者宛至急軍費送附方申越シタル爲此際直ニ送金スルノ可否ニ付躊躇シ居リタル商會側ニテモ遂ニ意ヲ決シタルモノト見エ十二日ノ新聞ハ前記富豪ノ據出ヲ引當ニ銀行ヨリ二十萬元ヲ借入レ十一日はヲ香港宛送金セル旨報道シ居レリ

三、一方十日來ノ各新聞ハ林。壽。國。(元在泉州陸戰隊旅長)陳季良合作シ之ニ陳國輝ヲ加ヘ方聲濤又ハ陳季良總指揮ト爲リテ共產軍討伐ニ當ルコトト爲レル旨大々的ニ報道スル一方省政府ハ最近逮捕ヲ取消サレタル元師長高。義。ヲ剿赤總司令ニ任命シ林知淵亦之カ協議ノ爲近く來厦スヘシトノ消息ヲモ傳ヘ居レリ

四、前項ノ報道ハ福建省ノ面子ヲ顧念シ又ハ廣西軍ノ入閩ヲ喜ハサル一派ノ空氣ヲ反映スルモノカト觀察セラルル處同

查家族十二名モ三日鼓浪嶼ニ移シ又臺灣人巡查家族十六名ハ同一便船ニテ臺灣ニ歸還セシメタリ
尙同船ニテ菊本洋行主家族四名並ニ漳州方面ヨリ避難シ來レル臺灣人十一名モ歸臺セリ

支ヨリ南京へ轉報アリ度シ
廣東ヨリ香港へ轉報アリ度シ

支、北平、奉天、上海、漢口、福州、汕頭、廣東へ轉電セリ

605 昭和7年5月12日 在厦門三浦領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

厦門總商會側の共產軍討伐費調達運動の現況 について

厦門 5月12日後発
本省 5月12日後着
第二四八號

往電第二〇五號並ニ第二二二號ニ關シ

其後赴粵代表者ハ當地出身ノ蕭佛成ヲ頼リ陳濟棠等ニ交渉ノ結果廣西軍ノ來援ヲ見ルコトニ決定セル旨新聞ニ報道セ

軍ノ來援説ト共ニ實現ノ可能性ニ付テハ何レモ疑問ノ餘地之有ルモ一般人心ノ動搖ヲ防止スルノ消極的效果ハ相當之有ルモノト觀ルヲ得ヘシ

支、上海、漢口、南京、北平、奉天、廣東、福州、汕頭へ轉電セリ

廣東ヨリ香港へ漢口ヨリ九江へ轉報アリ度シ

606 昭和7年5月13日 在厦門三浦領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

領事館が事件発生以来執りつつある対応策ならびに海軍側との連絡方法について

厦門 5月13日後発
本省 5月14日前着
第二五〇號

往電第二二五號ニ關シ

當方面ノ情勢今尙樂觀ヲ許ササル次第ハ累次電報ノ通り殊ニ米國側ノ鼓浪嶼防護不能ノ結果列國海軍ハ危急ノ場合ノ外陸戰隊ヲ揚陸セス差當リ大陸方面ヨリスル共產軍渡來ノ防遏ニ任スルノミニシテ從來一般ニ安全視サレタル共同租

界ハ實ハ極メテ不十分ナル工部局警察ノ一手ニ委ネラレ奥地ヨリ來タル避難者ノ検査取締スラ頗ル不完全ニシテ實際上ノ危険ハ寧ロ日一日ト増大シ居ル内情ナル處當館カ今次事變發生以來厦門鼓浪嶼ニ於テ執リツツアル對應策並ニ海軍側トノ聯絡方法大要左ノ通り御參考迄

一、臺灣總督府應援警察官ヲ全部厦門分署詰トシ分署ヨリ引揚ケ集合豫定地タル臺灣公會及臺灣銀行ニ派出所ヲ設ク
(但シ人員不足ノ爲臺灣銀行ニハ差當リ執務時間中巡查一名ヲ派遣スルニ止ム)

二、分署員家族ヲ鼓浪嶼又ハ臺灣ニ引揚ケシム
三、本署及分署員ハ常時非常勤務ニ服セシム

四、海軍ヨリ聯絡將校一名館内(司法領事室)ニ晝夜常駐ス
五、署長官舎應接間及法廷ヲ聯絡兵(聯絡將校附)並ニ陸戰隊ノ寢室及休憩所ニ充ツ(但シ米國ノ陸戰隊揚陸不同意ノ結果目下聯絡兵六名ノミナリ)

六、軍艦用輕便無線電信機ヲ警察本署地下室ニ備付ケ通信兵三名常時軍艦トノ聯絡ニ從事ス

七、鼓浪嶼南海岸ノ書記生官舎ニ信號兵四名ヲ宿泊セシメ絶エス前面ノ軍艦トノ聯絡ヲ計ル

軍龍岩ヨリ入漳シ直ニ漳平石碼海澄其ノ他ノ各地ニ配置セラレタル趣ニテ本件ニ付テハ一龍岩在任者ヨリ當地ニ避難中ノ同縣人ニ對シ毛澤東ハ江西省ヨリ約一萬ノ共產軍ヲ龍岩ニ呼ヒ寄セタルカ更ニ之ヲ漳州ニ送ル筈ニテ先發隊ハ既ニ出發セル旨ノ秘密通信アリタル外八日米國領事モ新軍入漳ノ情報アル旨語り又英國領事モ朱德ノ軍隊入漳セル旨ノ聞込アリト十日態々電話シ來リタルニ顧ミ右情報ハ大體事實ト認メラルル處又最近ニ至リ從來江西ニアリタル「ソビエツト」中央政府モ龍岩ニ移サレ幹部連モ全部到着元「ソビエツト」縣政府跡(嘗テ閩西「ソビエツト」政府及同縣政府置カレタルコトアリ)ニテ事務ヲ開始セル旨ノ聞込アリ以上ノ諸事實ニ顧ミ共產軍側ニ於テモ官軍恐ルルニ足ラスト見極メヲツケ愈福建ニ尻ヲ据ヘントシ居ルモノニアラスヤト察セラレ

漢口ヨリ九江へ廣東ヨリ香港へ轉報アリ度シ
支、上海、南京、漢口、北平、奉天、福州、廣東、汕頭へ轉電セリ

支、上海、奉天、北平、南京、漢口、廣東、福州ニ轉電シ、汕頭、香港へ暗送セリ

607 昭和7年5月14日 在厦門三浦領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

共産軍側がソヴィエト中央政府を龍巖に移転した旨の情報について

厦門 5月14日後発 本省 5月14日後着

第二五一號

當地ヨリ漳州へノ交通杜絶シ居ル一方同方面ヨリ新ニ避難シ來ルモノハ極下層ニ屬スルモノナルヲ以テ共產軍ノ行動ニ關スル說モ區々ニ分レ其ノ真相ヲ擱ムコト極メテ困難ナルカ四月末以來石碼海澄方面ノ共產軍ハ漸次其ノ數ヲ減シ次テ漳州ノ大部隊モ漳州及附近村落ニ於テ徵發シタル壯丁一千名ヲ引キ連レ(訓練ノ爲)且多量ノ現銀ト物資ヲ運搬シ龍岩ニ引揚ケタル趣傳ヘラレタル處其ノ後當館ニ於テ得タル情報ニ依レハ右相當大部隊ノ共產軍(二四千ト稱セラル)ノ引揚ハ事實ナルモノ一方四日頃之ト入り換リニ約一萬ノ新

608 昭和7年5月16日 在厦門三浦領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

領事団會議において英國領事が陸戰隊を揚陸し工部局側と協力方ならびに米國不賛成な場合日英仏共同実行方提議について

厦門 5月16日後発 本省 5月17日前着

第二五七號

往電第二五六號ニ關シ

(一)十五日正午領事團會議開催先ツ佛國領事ヨリ前記往電ノ要領ヲ語りタル處米國領事ハ支那人ノ義勇隊カ何故ニ危険ナルヤ又外國人ノ義勇隊ヲ組織セシメテハ如何工部局ハ巡警ヲ増加シ(脱)ナリ是カ爲徵稅ヲ爲ス責任アリ等種々苦シキ意見ヲ述ヘタルカ右ニ對シ英佛兩國領事ヨリ交々反駁説明ヲ加ヘタリ

(二)次テ英國領事ヨリ各國公使ニ對シ「信スヘキ情報ニ依レハ最近朱德ノ率ユル六千ノ共產軍漳州ニ入り又龍岩ニアリタル本部ヲ南靖ニ移シタリトノコトナルカ共產軍カ泉州ヲ陥レ次テ厦門ニ迫ルモ遠カラサルヤニ感セラレタル處工

香港へ轉電セリ

昭和7年5月19日

芳沢外務大臣より
在厦門三浦領事宛(電報)

米國側が態度を一変し陸戦隊揚陸に決したの
を機会に列國間の完全協調を持続方訓令

本省 5月19日6時0分発

第四五號

貴電第二六五號ニ關シ

(欄外記入) 米國側カ從來ノ態度ヲ一變シ擾亂發生ノ虞アル場合各國ト協力シ陸戦隊ヲ揚陸シ得ルコトニ決シタルハ(右ハ勿論租界防衛ノ爲メノ協力ヲモ含ム趣旨ナリト了解ス)此際頗ル好マシキ現象ト認メラルルヲ以テ貴官ハ此ノ情勢ヲ利用シ列國間ノ完全ナル協調ヲ實現持續セシムル様此上トモ盡力アリ度
海軍ト打合濟
貴電ノ通り轉電セリ
冒頭貴電ト共ニ聯盟及在米、英、佛大使へ轉電セリ

部局巡警増加問題ハ支那議員ヨリ支那人義勇軍組織ノ提議ヲ招キ右ハ頗ル危険ナルニ付現下ノ最上策ハ此ノ際陸戦隊ヲ揚陸シ工部局側ト協力セシムルニアルコトヲ特ニ力説セントス米國若シ不賛成ナラハ日英佛共同シテ之ヲ行フコトト致度シトノ趣旨ノ請訓ヲ爲ス所存ナリトテ其ノ原稿ヲ讀ミ上ケタル上日本領事モ本件ニ付請訓セラレヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ工部局議長カ出來得ル限リノ方途ヲ盡シタル上今ヤ在留外國人ノ生命財産保護ノ責ニ任スル能ハサルヲ言明シタルコト又佛國海軍カ租界共同防護ノ問題ト離レ租界ノ平和及秩序維持方ニ關シ訓令ヲ受ケタルコトハ何レモ新規ノ事態ナルニ付本日ノ會議ノ經過ト共ニ委曲本國政府ニ具報シ本官ノ執ルヘキ態度ニ付請訓スヘシト述ヘタリ

(三)次テ米國領事ハ曩ニ同國公使ニ對シ長文ノ電報ヲ以テ豫防的手段ヲ執ルノ得策ナル所以ヲ力説シ言フヘキ處ヲ既ニ言ヒ盡セル次第ナル處之ニ對シ前回ノ如キ訓令ニ接シタル譯ナルカ兎ニ角本日會議ノ經過ハ之ヲ電報スヘシト語り散會セリ

支、上海、北平、奉天、南京、漢口、廣東、福州、汕頭、

(欄外記入)

七、五、十九日海軍側ト電話ニテ打合スミ

610 昭和7年5月20日 在厦門三浦領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

領事団および各国海軍先任指揮官會議において
て各国陸戦隊揚陸に意見一致の模様について

厦門 5月20日後発
本省 5月21日前着

第二七二號

往電二六七號ニ關シ

一、十九日正午領事團及各國海軍專任指揮官會議開會ノ間際ニ於テ米國領事ハ同國專任指揮官出席(脱)受ケサリシトテ佛國(首席)領事ニ喰ツテ掛リ英國領事ニモ當リ散ラシ遂ニ佛國領事(脱)トハ摺ミカカラン計リノ大喧嘩ヲ始メ本官其仲裁ニ飛ヒ出ス等活劇宜シクアリ約一時間ノ後米國專任指揮官ノ來着ニヨリ漸ク議事ヲ開ク(往電第一八七號參照)

二、七時佛國領事ヨリ陸戦隊揚陸問題ニ關シ從來ノ經過ヲ述

ヘタル後米國側ノ協力申出ニ依リ此ノ際關係各國共同シ陸戦隊ヲ揚陸セシメ得ルモノト了解シ差支ナキヤト諮リタルニ英國領事ハ夫ハ然ラストテ前記往電所報本官ニ對スル電話ノ次第ヲ神經過敏ノ態度ヲ以テ申述ヘ更ニ訓令ノ接到ヲ俟ツノ要アル次第ヲ繰返シ述ヘタルニ對シ米國領事ハ既報新訓令到着ノ次第ヲ述ヘ其立場ヲ明カニシタルニ付本官モ關係各國ノ完全ナル協調アルニ於テハ陸戦隊ヲ揚陸シ差支ナシトノ一般訓令ニ基キ行動シ得ル旨ヲ述ヘタリ

三、次テ佛國領事ハ此際陸戦隊ノ揚陸ヲ要スヘキ事態ニ立チ到レルヤ否ヤヲ討議シ度キ旨申述ヘタル處(此ノ時本官ヨリ同領事ニ對シ本日ハ何ヲ討議スル爲ニ集マリタルモノナリヤト私語シタルニ(脱)領事ノ立場ヲ聽キ且ツ今日陸戦隊ノ揚陸ヲ必要トスヘキ事態ニ在ルヤ否ヤヲ討議セントスルモノナリト答ヘタリ)米國領事ハ米國ノ關スル限リニ於テハ同國軍艦ハ同領事館ノ直前ニ碇泊シ實ハ陸戦隊ヲ揚陸シタルト同様ノ效果ヲ有シ居ルモノナリ然レトモ四圍ノ空氣ニ鑑ミ各國ト協力ヲ爲シ得ル様自分ニ於テ努力ノ結果米國政府モ從來ノ方針ヲ變更スルニ至リタ

往電第二七二號ニ關シ

(一) 其後英國側ヨリ一向音沙汰無キニ付二十三日同領事ヲ往訪質問シタルニ實ハ昨日政府及公使ヨリ訓令接到シタル處右ハ英國人ノ生命カ實際危険ニ瀕スル迄(British lives are actually in danger)陸戰隊ヲ揚陸スヘカラスト云フニアリテ自分ハ非常ニ困難ナル立場ニ陥リタル次第ナルカ不取敢之ヨリ右ノ次第ヲ同僚ニ通報セント思ヒ居ル所ナリト答ヘタリ

(二) 依テ本官ハ右ハ全体如何ナル理由ニ基クモノナルヤ從來ノ經緯ニ顧ミ充分理解スル能ハスト推問シタルニ同領事ハ自分トシテモ甚タ了解ニ苦ム所ナルカ政府ノ考ヘハ一九三〇年制定ノ英國海軍内規(前記實際ノ危険云々ト同趣旨ノモノ)ニ「ステイツク、ツ」シツツアルモノト思ハルサリ乍ラ實際ノ危険トハ如何ナル事態ヲ云フヘキカ之カ判定ハ甚タ困難ニシテ斯ク云フ今ニモ此ノ領事館ニ爆彈ヲ投下セラルルカ如キコトモアリ得ヘク而モ其時ハ「ツ、レート」ナルヘシト述ヘタリ

(三) 次テ本官ハ(イ)然ラハ英國政府ハ鼓浪嶼防護(デイフエンス)ノ方針ヲ一變シ危險ノ生シタル最後ノ瞬間ニ於テ居

留民引揚ノ前提トシテ陸戰隊ヲ揚陸セントスルモノナルヤ(ロ)嚮ニ米國領事ト同國海軍側トノ間ニ多少行違アリタル模様ナルカ本件ニ關スル英國專任指揮官ノ意見如何(ハ)英國政府ハ支那側ニ對スル反響ヲ顧慮シツツアルニアラスヤト質問シタルニ對シ

(四) 同領事ハ(イ)防護ノ方針ハ變更シタルニ非ス陸戰隊揚陸後ハ共同防衛ニ當ル筈ニテ引揚ノ如キハ考慮シ居ラス(ロ)英國艦長ハ全然自分ト同意見ニテ今ニモ陸戰隊ヲ揚陸セシムヘク準備ヲ整ヘ居リシモノナリ之ニ加フルニ同艦長ハ一昨二十一日英國側ノミ權限ヲ附與セラレサル爲領事ハ非常ニ苦境ニ陥レル旨ヲ所屬司令長官ニ打電シ吳タル位ニテ今回ノ訓令ニ對シ甚ク憤リ(「アングリ」)居レリ

(五) 鼓浪嶼ノ支那住民モ陸戰隊揚陸ヲ希望シ居ル次第(往電第二七三號參照)尙其後議長タル首席領事宛ニモ特ニ申越アリタリ(其他上海事件ノ場合ト全然事情ヲ異ニシ居ルコトハ電報濟ミニテ政府ニ於テモ充分理解シ居ル筈ナリト答ヘ

(六) 最後ニ兎ニ角自分トシテハ斯ク明瞭ナル訓令ヲ受ケタル以上如何トモ策ノ施シ難キ状態ニ陥リタルカ無駄ニハナ

ル次第ニテ今更斯カル問題ヲ討議スルトハ意外ナリト啖キタルカ本官モ領事團ニ於テハ既ニ二週間前ニ於テ其ノ必要ヲ認メ工部局ノ來意ヲ列國海軍ヘ取次キタル次第ニテ又去ル十五日ノ會議ニ於テモ一層ノ必要アルヲ認メ米國海軍ノ參加ナクトモ爾余ノ海軍ニ於テ陸戰隊ヲ揚陸スヘキヤ否ヤヲ討議シタル位ナリ故ニ今日更ニ討議ヲ要スヘキ何物カカ存在スルトセハ從來ニ比シ事態カ改善シタリヤ或ハ惡化シタリヤノ一點在ルヘキノミ自分ノ觀ル處ヲ以テスレハ事態ハ漸次惡化シツツアルモノト認メサルヲ得スト述ヘタルニ英國領事贊意ヲ表シ工部局議長モ前夜ノ參事會員會議ニ於テ租界内ニ於ケル外國人ノ生命財產保護ノ爲此ノ際出來得ル限り速ニ國際聯合軍(インタナショナル、デイフエンス、フォース)揚陸方ヲ領事團ニ對シ更ニ要請スヘキ旨決議アリタル次第ヲ披露セリ

四、茲ニ於テ「領事團ニ於テハ英國領事ニ於テ必要ノ訓令接受次第B案ニ依リ陸戰隊揚陸ノ必要アリト認ム尙右ハ此ノ際安全ヲ感シ且ツ來ラントスル攻撃ヲ阻止スル上ニ於テ與ツテ力アリ」トノ意見ニ一致シタリ

五、其後各國指揮官別席ニ於テ打合セヲ行ヒ北上艦長ヨリ事

態更ニ惡化スル迄當分日本側ニ於テハ巡邏ヲ行ハサルコトト致シ度キ旨提議シタルニ對シ英國艦長之ヲ支持シ支那街ニ近キ個所ニ於テハ成ル可ク軍隊ニ於テ直接支那人ニ接觸セサルヲ得策トスヘキヲ述ヘタル結果日本領事館ノ警備ハ日本陸戰隊ニ於テ受持チ從來領事館ノ前後ヲ警備シ居リタル巡警一名晝夜合計六名ヲ他ノ警備手薄ノ方面(日本受持區域内)ニ振り向ケルコト尙各國海軍モB案ノ巡邏區域中工部局ノ特ニ此ノ際必要ト認ムル部分ノミ巡邏スルコトニ決定シタル趣ナリ

冒頭往電ノ通轉電セリ

~~~~~

611 昭和7年5月24日 在厦門三浦領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

英國人の生命が實際危険に瀕する迄陸戰隊揚陸方不可との英國領事宛同國政府訓令について

厦門 5月24日前發  
本省 5月24日後着

第二七九號

ルトモ今一度電報ヲ出サンカト考ヘ居ル次第ナリ夫レニハ實際ノ危険カ迫リ居ル證據ヲ見出スノ必要アリト語りタルニ付本官ハ往電第二七〇號及第二七六號ノ次第ヲ内話シ置キタリ  
冒頭往電ノ通轉電セリ

612 昭和7年5月28日 齋藤外務大臣より  
在厦門三浦領事宛(電報)

英国をして列国と協調仕向け方訓令

本省 5月28日後8時発

第五〇號

貴電第二七九號ニ關シ

先般ノ米國側ノ遣口ト云ヒ今回ノ英國側ノ態度ト謂ヒ共通ノ脅威ヲ目前ニシナカラ今猶關係國間ニ完全ナル協調ヲ見ルニ至ラス紛糾ヲ繰返シ居ルカ如キハ危険千萬ニシテ斯クテハ萬一ノ場合ニ於ケル混亂ノ程モ思ヒ遣ラレ甚タ遺憾ノ次第ナリ就テハ貴官ハ比較的確乎タル態度ニ始終シ來レル佛國側ト手ヲ携ヘ英國側ニ對シ此場ニ臨ミ突如トシテ折角ノ協調ヨリ手ヲ退キ他國ヲ至クノ困惑ニ陥ルルカ如キ態度

拂ハレ飽ク迄各國共通ノ脅威排除、租界防衛ノ大目的ノ爲メニ堅固ナル共同戦線ヲ張ルヲ必要トスルモノナリトノ公正ナル主張ヲ持シ列國ヲ導ク上ニ此上トモ一段ト工夫ヲ廻ラサレ度ク其間ニ於ケル居留民ノ保護ニ付テハ累次往電特ニ往電第三二號(一)ノ趣旨ヲ体シ慎重措置アリ度シ  
貴電通り轉電セリ

英、米、佛へ轉電セリ

613 昭和7年5月30日 在厦門三浦領事より  
齋藤外務大臣宛(電報)

共產軍急遽撤兵の状況および原因等について

厦門 5月30日後発  
本省 5月30日後着

第二九五號

往電第二九四號ニ關シ

一、其後新聞其他ノ情報ヲ綜合スルニ共產軍ハ二十七日先ツ海澄、石碼ヲ放棄シテ漳州ニ退却シ吳賜ノ部隊及高義系ノ民軍之ニ代テ入りタルカ漳州モ二十八日未明迄ニ全部自ラ撤退シタルヲ以テ同日陳國輝旅ノ一營三百餘名及四

ニ出ツルコトヲ思ヒ止マル様理ヲ盡シテ説得スルト共ニ兎モスレハ協調ニ不熱心ナラムトスルノ傾アル米國側ヲモ引キ締メ相互ノ感情問題ヲ一掃シテ完全ナル列國協調ノ實ヲ舉クル様努力セラレ度ク英國領事サヘ其氣ニナリ警備艦ト腹ヲ合ハセ現地ノ實情ヲ具シテ協調ノ必要ヲ熱心ニ公使乃至政府ニ稟申スルニ於テハ先般ノ米國側ノ例モアリ英國側ヲシテ是レ迄通りノ協調ノ方針ニ立チ歸ラシムルコト必スシモ難事ニ非サルヘシト思考ス尤モ英米側特ニ英國側カ今ハノ際ニ俄カニ其ノ態度ヲ豹變シタルニ付テハ元々彼等トシテ日支ノ間ニ紛争起レル場合之ニ捲キ込マレサル様極力警戒シ來レルハ御承知ノ通ニシテ最近問題ノ十九路軍ノ貴地方面移動説モ傳ヘラレ居ル爲メ(貴電第二八七號)自然日本側ト事端ヲ醸ス危險モ加ハレルモノト見テ危惧心モ不尠手傳ヒ居ルニ非スヤト推測セラルル節モアリ今後殊ニ同軍ノ移動實現トモナラハ英米側トノ接衝ニハ此點ヲ考慮ニ入ルルヲ要スヘキ處御來示ノ通此際我方カ獨リ焦リ出スコトハ日本カ自己ノ利益ノ爲メニ他國ヲ道伴レニセムト謀ミ居ルカ如キ懸念ヲ抱カシムル虞アリテ不得策ナルニ付列國ヲシテ不必要ニ斯カル邪推ニ陥ルルコト無キ様充分ノ注意ヲ

十九師ノ一部隊ハ北方ヨリ、高義、吳賜等ノ民軍ハ南方ヨリ相前後シテ入城シタル趣ニテ引續キ大部隊ノ入漳ヲ見ツツアリ尙方聲濤、林知淵、高義、張貞等モ近ク入漳ノ筈ナル趣ナリ

三、是ヨリ先(脱?)十九路軍ヲ恐ルルモノニ非ス只同軍カ日本軍ニ抵抗セル名譽ヲ傷ケザラント欲スルノミ吾人ハ無抵抗ニ同軍ニ此地ヲ讓ルヘシト聲言シ居リタル由傳ヘラレタルカ漳碼一帶ヲ搾取シ盡シテ餘溢ナキ今日同軍トシテハ此ノ際一應當方面ニ見切りヲ付ケ無傷ノ儘引揚クルヲ得策ト認メ共產軍一流ノ退却振りヲ示シタルモノカトモ察セラルル處彼等ノ退却ノ經路ハ南靖、龍岩方面ナラント一般ニ信セラルルモ未タ之ヲ確認セルモノナク三十日(日曜休刊)ノ各紙號外モ踪跡不明ナル旨報道シ居レルカ漳浦方面(一時民軍ニ奪回セラレタルモ後再ヒ共匪ノ手ヲ落チタリト傳ヘラル)ニハ相當有力部隊アリタルコト故之トノ聯絡ヲ絶ツカ如キコトハナカルヘシ尙彼等ハ漳州退出ニ先立チ紅軍ハ退却スルニ非ス兵ヲ割キテ閩北並ニ廣東省東江方面ヲ突カントスルモノナリト布告セル趣ナリ

三、尙謀報ニ依レハ今回共產軍ノ引揚ハ(一)此ノ際退却セハ十九路軍ノ入閩或ハ中止セラルヘキコト(二)目下避難中ノ資産家ノ復歸ヲ待チテ再度襲撃スルコト(三)漳州カ守ルニ不利ナル地勢ナルニ鑑ミ態ト退却シ政府軍及民軍ヲ漳州ニ引込ミタル上再ビ之ヲ襲ヒ一舉ニ之カ覆滅ヲ計ルコト等ノ魂膽ニ出ツルモノナリト聞込ミノ儘

漢口ヨリ九江へ廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

冒頭往電ノ通り轉電セリ

614 昭和7年6月1日 在厦門三浦領事より 齋藤外務大臣宛(電報)

共産軍の漳州退却後における避難民の情況について

厦門 6月1日前発  
本省 6月1日後着

第三〇三號

奥地方面ヨリノ避難民逃來モ二十八日共產軍ノ漳州退出ト共ニ一段落ヲ告ケ二十九日ヨリ様子ヲ見テ弗々歸還スル者アル模様ナルカ其二十八日迄ノ狀況大要左ノ通

615 昭和7年6月14日 在厦門三浦領事より 齋藤外務大臣宛(電報)

鼓浪嶼側避難の邦人家族、警察分署員家族等に厦門側に復帰方示達ならびに応援警察官の帰還予定について

厦門 6月14日後発  
本省 6月14日後着

第三二三號

往電第二二五號後段及往電第三二〇號ニ關シ

一、鼓浪嶼側ニ避難中ノ邦人家族ハ十二日又警察分署員家族ハ十三日ニ夫々厦門側ニ復歸セシメ同時ニ臺灣ニ歸還中

(一)厦門側避難民ハ公安局戸口調査面ニ現ハレタル者四萬七千餘名ナルモ其ノ實數ハ少クトモ七萬ニ達スル見込ニテ之等避難民ノ過半数ハ旅館及親族故舊方ニ其ノ居住ヲ得タルモ爾餘ノ數千名ハ宿ルニ家無ク路傍、軒下等ニ散亂野宿シ或ハ無斷ニテ空家ニ押入り土間ニ宿泊スル等ノ慘狀ヲ呈シタルカ其一部ハ公安局博濟院ニ收容シ更ニリユウケイドウ教會ノ斡旋ニテ數箇所ノ旅館等ニ收容シタルモ何レモ設備不完全ニシテ衛生上其ノ他ノ點ニ於テ悲惨ナル狀態ニアリ

(二)鼓浪嶼側ノ避難民ハ工部局、華人議事會閩南舊教會等ノ推算ヲ綜合スルニ大体二萬五千以上ニ達スルモノノ如ク其中身寄無ク無一物ノ者約千名三ヶ所ノ收容所ニ收容セラレ居ルモ經費不足設備頗ル不完全ナル爲悲惨ナル狀況ニ在リ

(三)右ノ外當地ノ物價高二驚キ泉州金門等ノ安全地帯ニ避難シタルモノモ相當多數アルニ付漳州、石碼附近ハ殆んど柄空ノ狀態ニ在リタル事ト察セラル

支、上海、南京、漢口、北平、奉天、廣東、福州、汕頭へ轉電セリ

ノ旭瀛書院職員並ニ巡查家族モ呼ヒ寄セ差支ナカルヘキ旨示達シ置キタリ

三、一方應援警察官ノ歸還期ニ付警務局長ヨリ電照ノ次第モアリ當地ノ情勢ハ警察上ノ特別警戒ヲ解ク迄ノ域ニ達シ居ラサルモ共產軍退散ノ今日此ノ上長ク引留ムルコトハ名分上ヨリスルモ困難ト認メラルルニ付來ル二十一日便船ニテ歸還セシメ同時ニ往電第二五〇號ノ(一)ノ派出所ヲ撤廢スル豫定ナリ就テハ以上御承認置キヲ請フ

支、北平、奉天、上海、南京、福州、廣東へ轉電セリ

汕頭へ暗送セリ